

## 編集者のことば

本号は、三つのプロジェクト研究のそれぞれの研究成果である14篇の論文と講演記録から構成した。

一つは、1992年度から始められた「大都市の地域経済構造と環境の保全・創造に関する総合的研究」の一環として、飯島伸子研究員を代表者として行われた多摩地区の三鷹市と府中市を対象とした「都民の水環境意識調査」をもとにとりまとめられた共同調査の報告である。この研究は、都民の水環境に関する日常的な意識と行動の分析をもとに、地球環境問題をも含むグローバルな環境意識との関連において地域に根ざして環境を守り、維持しようとする生活者や自治体の行動の役割や意義を明らかにしたものである。内容は、この共同調査に参加された飯島伸子、鶴銅照喜、木本喜美子、寺田良一、柏谷至、藤川賢及び太田茂樹の7人の研究者が8つのサブテーマを分担執筆されており、8篇の論文から構成されている。内訳は、「多摩地区の水環境と都民の環境意識」、「調査対象者と回答者の基本属性」、「水道水・地下水汚染問題認知と環境問題認識の諸レベル」、「地域住民の水辺環境認識と水辺環境の保護」、「環境意識の諸相」、「地域への愛着と環境意識」、「女性と環境行動」及び「その他項目自由回答の分析」である。

二つは、1990年度から行われた「大都市の緊急防災システムの最適化とその効率的運用に関する総合的研究」の一環としてとりまとめられた研究の成果であり、2篇の論文からなる。小坂俊吉「シミュレーション手法による地震時の火災被害および人的被害予測システム」は、地震火災による建物被害や人的被害に関する出火・延焼モデル及び広域避難モデルについて概説するとともに、このモデルを現実の市街地に適用してその有用性を検証した論文である。塩野計司他「被災国の所得水準を考慮した震害態様の分析」は、地震の被害額を所得と死者数から説明する経験式をつくり、この式を用いて、被災国の中で経済成長が初期段階にある発展途上国の災害脆弱性が大きいことを立証した論文である。

三つは、1988年度から1991年度に行われたプロジェクト研究「大都市高齢社会の問題状況と政策課題の総合的研究」の一環として、星野信也研究員を代表者として大都市高齢者の「住み続け」の条件をさぐることを目的に東京都北区を対象地として行われた「高齢化社会の住宅問題に関する調査」にもとづく共同調査の報告である。内容は、この調査に参加された星野信也、松本暢子、藤崎宏子及び江上渉の4人の研究者が4つのサブテーマに分けて執筆されており、4篇の論文から構成されている。内訳は、「住宅政策の回顧と展望」、「住宅・住環境の条件にみる高齢者の居住実態への影響」、「大都市高齢者の住み続けの条件」及び「大都市居住高齢者の近隣交際関係」である。本研究報告は、1989年から1990年にかけて行われた調査にもとづいて4年の歳月をかけてようやくまとめられたものであるが、この調査研究上の意義は現在においても少しも失われていないと思われる。

さいごに、第7回公開講演会『都市住民の健康づくりー住民が参画する新しい健康づくりー』の講演記録を収録した。この公開講演会は、都市研究所が都市研究の成果を都民に公開する目的で1988年度から毎年催しているもので、今年度は都市研究所の研究部門として新たに地域福祉・保健部門が開設されたこともあり、都市住民の健康問題をテーマにした講演会を開催した。

1994年12月

秋 山 哲 男  
福 岡 峻 治